

〈自己注射〉ヌーカラ皮下注100mgペンの注射方法

編集協力：昭和大学医学部内科学講座

呼吸器・アレルギー内科学部門 教授 相良 博典先生

- 気管支喘息患者さんは1回に1本、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)患者さんは1回に3本を注射します。
- 気管支喘息では、成人および12歳以上の患者さんが対象です。
- 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)では、成人患者さんが対象です。

【ヌーカラ皮下注100mgペン】



【保存に関する注意】

- お薬の入ったペンは箱のまま必ず冷蔵庫で保存してください(冷凍しないでください)。
- 冷蔵庫から取り出した場合は、室温(30℃以下)で外箱に入れたまま保存し、7日以内に使用してください。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿の場所に置かないでください。

【取扱いに関する注意】

- ヌーカラ皮下注100mgペンを振らないでください。
- 硬い場所に落とした場合は使用しないでください。



パッケージ外観

ヌーカラ皮下注100mgペンの注射部位

- 注射する部位は「腹部」、「太もも」または「上腕」^{注)}です。

注) 介助者など患者さん以外の方が注射する場合は、上腕に注射することもできます。



1 ヌーカラ皮下注100mgペンを室温に戻します。

- ヌーカラ皮下注100mgペンを冷蔵庫から取り出して、箱から出し室温に置いて30分以上待ちます。
- 箱から開封後、8時間以内に注射しなかった場合は使用しないでください。
- 使用期限を過ぎている場合は、使用しないでください。



2 薬液を確認します。

- 未使用の製品であることを確認します(薬液確認窓から薬液が見えず、確認窓が黄色に変わったものは一度使用した製品です)。
- 薬液に濁りや粒子がみられる場合は、**使用しないでください**(薬液は無色～微黄色または微褐色の澄明な液体です。いくつか気泡が入っているのは正常です)。



3 注射部位を選び、アルコール綿で拭いて消毒します。

- 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)に対し、3本注射する場合は、他の注射部位と5cm以上離してください。
- 同じ箇所に戻り注射しないでください。
- 皮膚が赤い、傷がある、硬くなっている部位には、注射しないでください。

(裏面へ続く)



〈自己注射〉ヌーカラ皮下注100mgペンの注射方法

編集協力：昭和大学医学部内科学講座
呼吸器・アレルギー内科学部門 教授 相良 博典 先生

4 透明な針キャップをはずします。

- 針キャップをはずしたあとは、速やかに使用してください。
- 針キャップをはずしたあとは、**再度キャップをしないでください。**
(針刺し事故のほか、針曲がりや針折れにつながるおそれがあります。)
- **黄色い安全カバーを指で押さないでください。**



5 注射を始めます。

- 1 薬液確認窓が見えるようにペン本体を持ちます。注射部位に対して直角になるよう黄色い安全カバーを軽くあてます。
- **注射部位に直角になれば、体格によって皮膚をつまむ必要はありません。**
- 2 注射部位にペン本体の黄色い安全カバーが見えなくなるまで深く押しあてます。
- **薬液の注入が終わるまでペン本体を押しあてたまま、注射部位から絶対に離さないでください。**



6 注入を開始します (約15秒)。

- 「カチッ」と音がすると、薬液の注入が始まり、薬液確認窓の中を黄色の確認バーが動き始めます。薬液の注入が完了するまでに約15秒かかります。



7 注入を終了します。

- 薬液の注入が終了すると、2回目の「カチッ」という音がします。確認窓が黄色に変わることによって、注入終了を確認できます。



8 5秒間待ってから注射を終えます。

- 薬液の注入終了後、5秒間待ってから、ペン本体を注射部位から離します。つまんでいた皮膚を放します。



9 注射部位を軽くおさえます。

- 注射部位をアルコール綿で軽くおさえます。
- アルコール綿をはずして、注射部位から血が出ていないことを確認して、注射は終了です。
- **腫れることがありますので、注射部位をもまないでください。**



注射が終わったら

- ヌーカラ皮下注100mgペンは、1回ごとの使い捨てです。
- 使用後は再使用せず、用意した廃棄袋に入れ、医療機関の指示に従って廃棄してください。
- 針キャップはペン本体に取り付けず、廃棄袋に入れてください。
- ペン本体を分解しないでください。

- ⚠ 使用済みのペン本体は医療廃棄物です。絶対に自己判断で廃棄せず、医療機関の指示に従って廃棄してください。
- ⚠ お子様に触れないように注意してください。